

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）			
吹田徳洲会病院家庭医療後期研修プログラム			
2. プログラム責任者			
氏名	川上 英孝	指導医認定番号	2015-0126
所属・役職	医療法人沖縄徳洲会 吹田徳洲会病院 神経内科部長兼総合診療科部長		
3. 専攻医定員			
1年あたり（ 3 ）名 （×研修期間年数＝総定員 18 名）			
4. プログラムの期間			
（ 3 ）年間			
5. 概要			
A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長			
<p>吹田徳洲会病院：365床の急性期病院。総合診療科が総合診療の研修にあたる。また、内100床は療養型病床も有しており、急性期から慢性期、緩和ケアまで幅広い医療を展開している。</p> <p>また、同施設には介護老人保健施設も併設されている。週に1回程度の老人保健施設での研修も可能である。</p> <p>与論徳洲会病院：奄美大島群島にある与論島で数少ない医療施設で病院としては唯一の入院加療が可能な施設である。訪問診療や科を分けない外来診療を行っており、与論島唯一の病院施設である為、救急搬送は24時間100%受け入れている。</p> <p>岸和田徳洲会病院：救命救急センターを持つ341床の総合病院である。24時間断らない医療を提供してきており地域医療に貢献している。またその実績が地域住民の信頼を得ている。</p>			
B. プログラムの理念、全体的な研修目標			
<p>継続的・包括的に医療を提供し、疾患ではなく病もしくは病人を診る姿勢を身につける。</p> <p>頻度の多い訴え、症候、疾患に対する適切な医療を提供できるようになることを目標とする。</p>			
C. 各ローテーション先で学べる内容や特色			
<p>総合診療Ⅰ：与論徳洲会病院で研修を行い、離島の病院で日本の未来を体験する家庭医療が学べる。</p> <p>総合診療Ⅱ：吹田徳洲会病院で研修を行い、総合診療科で都市部の総合診療を経験できる。</p> <p>内科：岸和田徳洲会病院で主に消化器と循環器の疾患を深く学べる。</p> <p>小児科：岸和田徳洲会病院で一般小児科としてコモンな疾患を学べる。</p> <p>救急：岸和田徳洲会病院で年間9000台におよぶ救急搬入患者を経験できる。救急外来では、ACLSのリーダーとなります。</p>			
D. 指導体制に関する特長			
<p>ICU、救命救急病棟・内科病棟・小児科病棟等で、上級医の指導のもと引き続き患者を主治医として担当します。</p> <p>内科、循環器、消化器・神経・小児科等の上級医も一緒に回診し、幅広い専門分野からの助言を受けることが出来、成長を実感できます。</p> <p>その他、院内・外の指導医より、救急・内科・感染症・神経内科・循環器科・呼吸器・内視鏡等のカンファレンスを定期的で開催しております。</p>			
E. 医療関係職種、保健・福祉関係職種、地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法			
月10回～20回、地域住民のために医療講演会を開催。			

H. プログラムの全体構成（月単位の換算による）

総合診療 専門研修	総合診療専門研修Ⅰ (6) カ月		総合診療専門研修Ⅱ (12) カ月	
領域別 研修	内科 (6) カ月	小児科 (3) カ月	救急科 (3) カ月	その他 (6) カ月

6-1. 総合診療専門研修Ⅰ

研修施設名	与論徳洲会病院	診療科名 (総合診療科)		
施設情報	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 病院	施設が病院のとき → 病院病床数 (81) 床 診療科病床数 (41) 床		
総合診療専門研修Ⅰにおける研修期間		(6) カ月		
指導医氏名 1	久志 安範	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-1157)

要件

ケアの内容

- 外来診療：生活習慣病、患者教育、心理社会的問題、認知症を含めた高齢者ケアなど
- 訪問診療：在宅ケア、介護施設との連携などを経験し在宅緩和ケアにも従事
- 地域包括ケア：学校医、地域保健活動などに参加
- アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。
具体的な体制と方略（一次～二次の救急を受け入れている。また、救急車のみならず、時間外のウォークインも受け入れを行っている。当院では常勤医が少なく、指導医は外科だが科を分けない総合診療を行い、救急も内科外科問わず受け入れている。）
- 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。
具体的な体制と方略（外来診療（初診・再診外来）を担当医することにより、継続的な診療を行ない自身の予約診察で継続的に診療を行う。訪問診療も基本的には担当医制で行っている。指導医は外科だが科を分けない総合診療を行い、訪問診療も実施している。）
- 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。
具体的な体制と方略（小児・成人の急性期、亜急性期・慢性期医療、健診・予防、訪問診療、緩和ケアなど包括的な診療を行っている。）
- 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。
具体的な体制と方略（ 介護・福祉機関との連携が適切に取れる体制となっている。）
- 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。
具体的な状況（小児救急医療・周産期医療・がん連携病院にも力を入れており、地域住民が安心して生活できる町づくりの一部を担っている。そのため、子ども（0 歳）からお年寄りまで幅広い年齢層・同一家族が受診されている。）
- 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
具体的な内容と方法（受診している地域・受診していない地域を問わず、毎週数回地域住民を集めての地域医療講演会を行っている。）
- 在宅医療：訪問診療の体制をとっている。患者の急変、緩和ケアに対応している。
それぞれの概ねの頻度（訪問診療の体制はもちろん、患者の急変に対応できるように 24 時間 365 日救急対応を行っている。また、緩和ケアにも力を入れている。）

6-2. 総合診療専門研修Ⅱ

研修施設名	吹田徳洲会病院	診療科名 (総合診療科)		
施設情報	病院病床数 (365) 床	診療科病床数 (40) 床		
総合診療専門研修Ⅱにおける研修期間		(12) カ月		
指導医氏名 1	川上 英孝	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2015-0126)
指導医氏名 2	三村 仁昭	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2015-0180)

要件

ケアの内容

- 病棟診療：病棟は臓器別ではない。主として成人・高齢入院患者や複数の健康問題（心理・社会・倫理的問題を含む）を抱える患者の包括ケア、緩和ケアなどを経験する。
- 外来診療：臓器別ではない外来で、救急も含む初診を数多く経験し、複数の健康問題をもつ患者への包括的ケアを経験する。

病棟診療 ：以下の全てを行っていること			
■高齢者（特に虚弱）ケア 具体的な体制と方略（高齢者医療を中心とした継続的な入院・外来在宅研修が可能）			
■複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略（多くの問題を抱える内科疾患の患者の診療を幅広く経験する）			
■必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略（各科専門医と円滑な連携をとる体制ができています）			
■心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略（病状安定のための治療と支援（服薬治療等）、退院後の生活支援に向けた介護支援専門員との連絡調整、家族や介護者への支援等）			
■癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略（家族背景を踏まえ、主治医に症状コントロールやケアに関する提案を行う）			
■退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略（毎日新入院患者の退院支援を行うため、医師・看護師・介護支援専門員合同で検討会を行い、月一回連携室・医事課を含め退院調整会議を行う）			
■在宅患者の入院時対応 具体的な体制（緊急時は、時間外・救急外来で受診して頂き、入院した際には担当の医師に連絡をし、訪問の主治医が診療を行う）			
外来診療 ：以下の診療全てを行っていること			
■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（週1回、救急外来（救急車対応）・初診外来を当番制で行い、月5回程度の当直業務（主に救急外来）を行っている。）			
■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（週1回、初診外来を当番制で行っている。）			
■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（時間外外来・（特に救急外来）のおよそ6割程度が頻度の高い症候や疾患の患者である）			
■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（外部講師を招いて、外来・入院患者についてのカンファレンス（毎週）、EBMカンファレンス（2週間に1回）を開催している。）			
■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（複数の健康問題のある患者に対して、常勤の各専門医師や非常勤医師、看護師も含めて連携し包括的なケアを行っている）			
■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（不明熱など診断困難な患者については、総合診療科内での治療方針を決めるため、専門医を交えカンファレンスを行っている）			
6-3. 領域別研修：内科			
研修施設名	岸和田徳洲会病院	病院病床数（ 341 ）床	診療科名（ 内科 ）
領域別研修（内科）における研修期間		（ 6 ）カ月	
指導医氏名	植田 智恵	臨床経験年数（ 19 ）年	
有する認定医・専門医資格	内科学会専門医		
要件			
ケアの内容			
■病棟診療：病棟での主治医として主に内科疾患の急性期患者の診療を幅広く経験する。			
6-4. 領域別研修：小児科			
研修施設名	岸和田徳洲会病院	病院病床数（ 341 ）床	診療科名（ 小児科 ）
領域別研修（小児科）における研修期間		（ 3 ）カ月	
指導医氏名	武富 浩也	有する専門医資格（ 小児科専門医 ）	
要件			
ケアの内容			
■外来診療：指導医の下で初診を数多く経験し、小児特有の疾患を含む日常的に遭遇する症候や疾患の対応を経験する。			
■救急診療：指導医の監督下で積極的に救急外来を担当し、軽症、1次救急を中心に経験する。			
■病棟診療：日常的に遭遇する疾患の入院診療を担当し、外来・救急から入院に至る流れと基本的な入院ケアを学ぶ。			
6-5. 領域別研修：救急科			
研修施設名	岸和田徳洲会病院	病院病床数（ 341 ）床	年間救急搬送件数（ 9,000 ）件
指導医氏名	鍛冶 有登	有する専門医資格（ 救急科指導医 ）	専従する部署（救命救急センター）
要件			
ケアの内容			
■救急診療：外科系・小児を含む全科の主に軽症から中等症救急疾患の診療を経験する。			
施設要件 （下記のいずれかを満たす）			
■救命救急センターもしくは救急科専門医指定施設			
■救急科専門医等が救急担当として専従する一定の規模の医療機関（救急搬送件数が年に1000件以上）			

7. 専攻医の評価方法

※形成的評価（評価頻度・評価者・評価方法）

評価頻度：3ヶ月以上の研修がある領域は2～3ヶ月毎、3か月以下の研修領域は1か月ごとに行う。

評価者：各領域における指導医、360度評価は多職種。

評価方法：ポートフォリオ作成の支援を通じた指導を実施し、ポートフォリオを元に評価する。診療場面の直接観察やケースに基づくディスカッションを定期的実施。また、他職種による360度評価を各ローテーション終了時に実施する。

※総括的評価（評価時期・評価者・評価方法）

評価時期：各領域のローテーション終了時。

評価者：各領域の指導医・360度評価は多職種

評価方法：ポートフォリオを通じて研修達成の評価を行う。また、期間中に行われる360度評価の結果も重視して総合的な評価を行う。

※研修修了認定の方法（総括的評価結果の判断の仕方・修了認定に関わるメンバー）

総括的評価結果の判断の仕方：終了判定会議を実施して修了認定を行う。

修了認定に関わるメンバー：プログラム責任者の川上医英孝と指導医。

8. プログラムの質の向上・維持の方法

※質向上や維持のための情報源・その情報をどのように用いるか

プログラム責任者および各診療指導医が各ブロック研修修了時に研修評価を実施し、専攻医からのプログラム評価を受け、年1回会議を実施し評価結果を定期的に検討する。